

◆幹事 / プログラム担当から

矢野博明

幹事 (筑波大学)

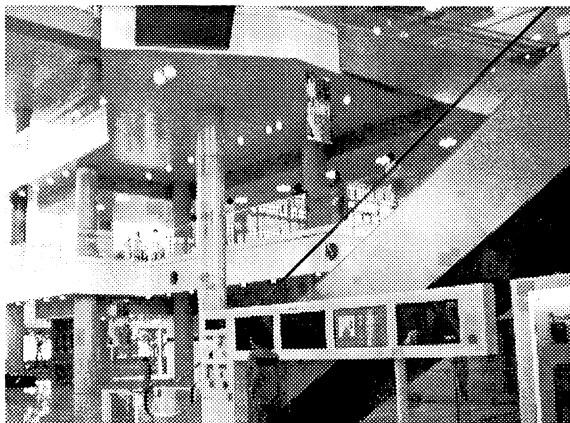
本大会は少数精鋭の実行委員会体制ということで、つくば近辺の方をはじめ各委員の方に多くの貴重な知恵と労力を提供していただきました。これは、これまでの大会で得られた様々なノウハウがあって、初めて可能になりました。この貴重な財産をフルに活用させていただいて、さまざまな新企画に取り組むことが出来ました。

中でも Web 上での発表申し込み、参加申し込み、JST データベース登録システムが効率アップに貢献してくれました。著者の力不足で登録ができない、リンクが見つからない、黒の背景のおかげで印刷しづらいなどご迷惑をおかけした方もいらっしゃいましたが、おおむねうまく動作し、発表申し込み 153 件、参加者 (有料登録者のみ) 336 名と予想以上のお申し込みをいただきました。

論文発表プログラムは、発表件数が増えた為に例年 1 日目は午後から始まることを 1 日目午前中にセッションを 3 つ増やし休み時間も少し増やしました。それでも活発な議論などのために、時間が足りない印象をもたれた方もいらしたと思います。これについては今後検討が必要だと思えます。

今年はまた、論文集も 500 ページを越え、立派になりました。そのかわり印刷の関係で締め切りが、かなりタイトになってしまいました。執筆者の皆様にはご無理を申し上げましたが、皆様のご協力により無事発行することが出来ました。また、河口先生、串山先生、小泉先生による論文集というよりは何かのパンフレットのような雰囲気の新鋭な表紙デザインも好評でした。

大会期間中にお配りしていたアンケートの結果は最後に掲載いたしますが、交通アクセスが不便であったことを除いておおむね満足いただけていたようで、がんばってやった甲斐があったと安堵しています。



このアンケートの結果は来年以降の大会運営に反映していけたらと思っています。また、アンケートにお答えいただいた方の中から 5 名の方に大会特製 T シャツをお送りいたしました。当選者の発表は発送をもって換えさせていただきますが、皆様ご協力ありがとうございました。

最後に本大会にご協力いただいた、参加者の皆様、座長、大会実行委員の皆様、学会事務局をはじめ多くの方々に心よりお礼申し上げます。

◆大会会場担当から

橋本渉

会場担当 (筑波大学)

今大会における私の役割は、大会会場運営と懇親会ゲームを担当することでした。ここでは会場と懇親会に関して、謝辞を交えて報告申し上げます。

・大会会場

第 5 回大会は、つくば国際会議場「エポカルつくば」の会議室でおこなわれました。「エポカルつくば」は昨年建立されたばかりの、江崎玲於奈先生を館長とする国際会議場です。今回の大会では、大会議室 2 部屋、小会議室 3 部屋を借り切って、口頭発表や企業・実演展示が平行しておこなわれました。

本学会の特徴ともいべき実演展示では、技術展示・芸術展示があわせて 14 件、企業展示が 18 件あり、1 階と 2 階の各会議室にわかれて展示がおこなわれました。展示条件によって場所を分割せざるを得なかったのは残念ですが、参加者と意見を交換する姿があちこちで見られ、双方にとって有益な場であったかと思えます。

さて、準備を含めた 4 日間、トラブルがなかったわけではありません。まず大会前日の準備では、照明が暗すぎてパネルや手元が見えない等の問題が発生しました。また電源容量が足りないといったことも起こりました。スポット照明や予備電源回路を利用するなど、場当たりの対応でその場をしのぎましたが、関係各位にはいろいろとご迷惑をおかけしてしまったかと思えます。深くお詫びいたします。

大会当日にはプロジェクタが点灯しない、というトラブルもありました。休憩時間中であったのが不幸中の幸いで、急遽予備のプロジェクタを導入しました。この時、迅速に対応頂いた葛岡先生に深く感謝いたします。

4 日間を通して、予想外の問題はあったものの、致命的なトラブルもなく無事に終了し、ほっと胸をなでおろして

おります。会議場スタッフの方をはじめ、期間中にお手伝いいただいたアルバイトの皆様、特別講演や展示においてご協力いただいたTAOスタッフの方々、そして発表者や出展者の皆様方に感謝いたします。

・懇親会

本大会のレセプションは、大会会場「エポカルつくば」の会議室で、第2日目夕方におこなわれました。レセプションでは館会長のあいさつ、特別講演モンキー・パンチ氏のあいさつに続いて論文賞発表と授賞式がおこなわれました。

例年ではここで演奏会がおこなわれるのですが、今回のレセプションでは趣向を新たに全員参加型のゲームがおこなわれました。これは、発光体つきのワンドを前方・後方のカメラにかざして、多数決でゲームを進行するものです。参加者全員に触覚フィードバックを呈示するため、ワンドには振動子が仕込まれています。なお装置の仕掛けについては大会論文集P.277～に掲載されています。

さて、ゲームのほうは3種類ありました。一部動作しなかったものもあり、担当者として大変悔しい思いをしましたが、他はおおむね期待通りの動作をしたと思います。直前のリハーサルで、スクリーンの光がカメラに入って誤認識することが判明し、関係者を慌てさせましたが、懇親会の進行中に調整してぶっつけ本番で臨みました。

100人同時ハプティクスという新しい試みに対して、懇親会直前までワンドを入念にチェックするなど十分な体制で臨みました。しかし空中配線のため短絡、断線等が原因で動作しなかったワンドがあるかもしれません。運悪く振動を体感できなかった方、申し訳ありません。

なお10個の送信機と100人分の装置については、合宿と称し、山にこもって製作に当たりました。終始手伝っ

ていただいた岩田研の学生11名に感謝いたします。また



カメラ画像処理プログラムおよび「がまキャッチ」「がまピンポン」には岩田研の中泉氏、続氏がそれぞれ担当されました。ここに感謝いたします。

◆TAO 連携イベント担当から

中村貴之

企画担当（通信・放送機構）

初めてVR学会に企画担当として参加しました。学会期間中、いくつかの展示、論文発表を拝見させていただきましたが、最新のVR技術の紹介に驚かされ、また活発な議論が行われていたことに感銘を受けました。

さて、私共はTAO連携イベントとして筑波大学の大学展示におけるクロスアクティブシステムの遠隔操作および特別講演遠隔参加として、主にJapan Gigabit Network (JGN) 側のネットワーク関係の整備を担当しました。まず、クロスアクティブシステムは、北九州ギガビットラボとつくば国際会議場（エポカルつくば）をJGNを使って結びました。リハーサルの際にプロジェクタの球が切れるなどいくつかのトラブルが発生しましたが、デモの時間帯は滞りなく行えました。

次に特別講演は、モンキー・パンチ氏の興味深く楽しい講演をつくば、北九州、けいはんなの3ギガビットラボで、聴講することができました。3地点合計して39名の聴講者にお集まりいただきました。今回講演に使用したTV会議用システムは、通常3地点の事務会議等で使用する物で、そのシステムを一部改良して使用しました。講演の際、システム上のトラブルが発生し、講演開始時間を数分過ぎてしまったことについて、この場を借りて深くお詫び申し上げます。

これに懲りず、機会がありましたら、またお声をかけていただきたいと思います。

最後に、日本バーチャルリアリティ学会が、今後さらに発展し、素晴らしい研究発表がなされますことをお祈りします。

◆機器展示担当から

望月茂

機器展示担当（ソリッドレイ研究所）

第5回大会機器展示は、企業展示18社、実演展示は、技術・芸術系合わせて10団体の出展があり、表示系、計